

子育て期女性の就労と家事の相互健康影響: baseline data 5-有配偶者の肩首のこり、腰痛

永谷 照男 (Teruo NAGAYA)
名古屋市立大学
大学院医学研究科 公衆衛生学
日比野 稔 (Minoru HIBINO)
近藤 康明 (Yasuaki KONDO)
国際セントラルクリニック

第89回日本産業衛生学会 (2016.5.27, 福島)

1

目的

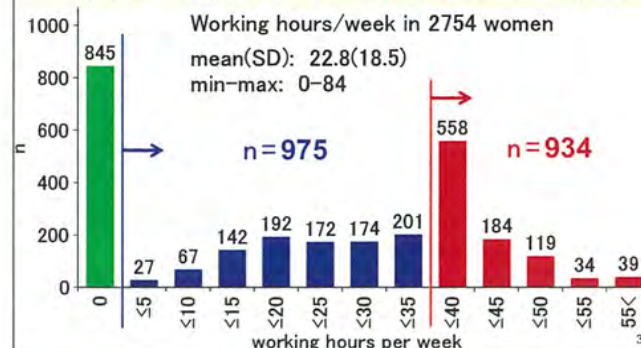
最終目的は、子育て期女性を対象に、**就労と家事の負担**が与える健康影響の評価。
今回は、baseline data から有配偶者を対象に、**就労**や**子育て**と日常的な自覚症状である**肩首のこり**および**腰痛**との関連を示す。

対象者

同意を得た健診受診女性 **5,737名**のうち、**25~49歳**の有配偶者から、重複者、退職者、妊娠中、学生を除き、今回の調査項目に欠損のない **2,754名**、平均年齢(sd) = 39.7(5.0) 歳

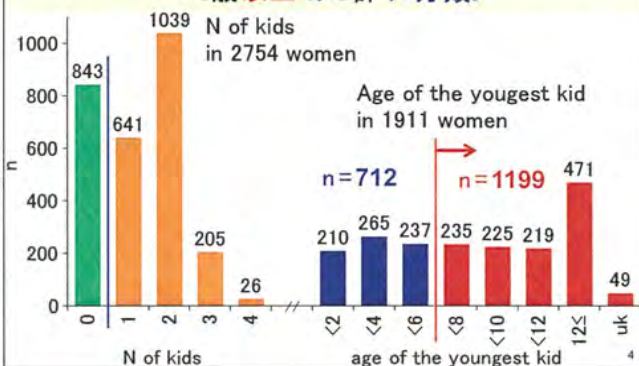
2

就労時間 一週の就労日数と一日の就労時間から一週就労時間を算出。⇒ **無職**、週就労時間が **35時間以下**、**35時間超**の3群に分類。



3

子育て 子の数は0~4人、平均1.25人。
⇒ **子育てなし**、末子年齢が**6歳未満**、**6歳以上**の3群に分類。



4

就労時間と子育て、各3群のnと平均年齢

就労時間	子育て / 末子年齢			計
	なし	<6歳	6歳	
無職	136 38.6	355 37.2	354 42.2	845 39.5
≤35 h/w (22.9)*	200 39.0	214 37.1	561 42.8	975 40.7
35< h/w (43.3)*	507 37.2	143 37.0	284 42.6	934 38.8
計	843 37.9	712 37.1	1199 42.6	2754 39.7

(*): 平均就労時間

5

自覚症状

問診票の自覚症状一覧から、「肩首のこり」、「腰痛」を選択 (yes/no) した者をそれぞれの症状「有」とした。

症状「有」は、「肩首のこり」**1138名** (41.3%)
「腰痛」**392名** (14.2%)

統計処理

Logistic regression analysis で次頁の全交絡因子を補正した「肩首のこり」、「腰痛」の odds ratio (OR) を算出し、**就労**や**子育て**と「肩首のこり」、「腰痛」との関連を検討した。

6

交絡因子 6項目 (すべて群変数で logistic regression analysis に使用)

- 年齢 5群: 5歳間隔
- BMI 4群: 4分位、mean(sd) = 20.7(2.9) kg/m²
- 治療中疾病 2群: なし/あり, n = 2057/697
- 飲酒 3群: 週アルコール量 0/≤25/25< g/w
n = 1441/605/708
- 喫煙 3群: 非/既/現, n = 2227/327/200
- 運動 3群: 週運動時間 0/≤100/100< min/w
n = 1785/545/424

7

結果A 就労時間、子育ての3群別 OR (95% CI) for 'shoulder/neck stiffness' or 'low back pain'

	shoulder/neck stiffness		low back pain	
	prevalence n (%)	adjusted OR (95% CI) #	prevalence n (%)	adjusted OR (95% CI) #
working hours/week				
none	327 (38.7)	1.00 (reference)	120 (14.2)	1.00 (reference)
≤35	395 (40.5)	1.10 (0.90, 1.33)	136 (13.9)	1.01 (0.77, 1.32)
35<	416 (44.5)	1.18 (0.96, 1.45)	136 (14.6)	1.04 (0.78, 1.39)
<i>p</i> for trend		0.165		0.789
age of the youngest kid				
no kids	384 (45.6)	1.00 (reference)	111 (13.2)	1.00 (reference)
<6 years	295 (41.4)	0.90 (0.72, 1.13)	113 (15.9)	1.31 (0.96, 1.80)
6≤ years	459 (38.3)	0.69 (0.56, 0.85)	168 (14.0)	0.99 (0.74, 1.34)
<i>p</i> for trend		<.001		0.850

#: adjusted for age, BMI, drinking, smoking, exercise and present disease

結果B 就労時間×子育ての9群別 OR (95% CI) for 'shoulder/neck stiffness' or 'low back pain'

working hours/week	age of the youngest kid		
	no kids	<6 years	6 years≤
adjusted OR (95% CI) for 'shoulder/neck stiffness' #			
none	1.00 (reference)	0.92 (0.61, 1.39)	0.58 (0.38, 0.88)
≤35	0.97 (0.62, 1.51)	0.84 (0.54, 1.31)	0.76 (0.51, 1.12)
35<	1.12 (0.76, 1.65)	0.93 (0.57, 1.51)	0.78 (0.51, 1.20)
<i>p</i> for interaction = 0.537			
adjusted OR (95% CI) for 'low back pain' #			
none	1.00 (reference)	2.28 (1.22, 4.63)	1.33 (0.69, 2.73)
≤35	1.58 (0.78, 3.36)	1.98 (1.00, 4.17)	1.40 (0.76, 2.82)
35<	1.60 (0.87, 3.21)	1.20 (0.54, 2.72)	1.75 (0.91, 3.60)
<i>p</i> for interaction = 0.085			

#: adjusted for age, BMI, drinking, smoking, exercise and present disease

まとめ

- 就労時間と子の年齢、それぞれの単独作用
 - 就労時間と「肩首のこり」、「腰痛」とは関連がなかった。
 - 子の年齢が高いほど「肩首のこり」が少なかったが、「腰痛」とは関連がなかった。
- 就労時間と子の年齢の交互作用
 - 「肩首のこり」に対する交互作用はなし。
 - 「腰痛」に対する交互作用は marginal であり、子の年齢と就労時間は「腰痛」への交互作用を示す傾向がある。

10

この研究は、

名古屋市立大学 大学院医学研究科 倫理審査委員会の承認を得ている。

三菱財団、日本健康増進財団、ヘルス・サイエンス・センター、愛知健康増進財団の助成金と文科省・科学研究費 (23590805, 26460750) を用い、

国際セントラルクリニック (名古屋市中村区、理事長: 内藤靖夫) の多くの受診者と職員の協力で実施している。

COI: none.

今後も研究経過を下記 HP に順次開示する。

<http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/kouei.dir/moku%20sinkou.html>

11

福島